

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人アクロス福岡	
施 設 名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	26,347	（千円）
公 演 事 業	25,674	（千円）
人材養成事業	0	（千円）
普及啓発事業	673	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ハイドン・フィルハーモニー	2018年6月24日	指揮者、チェロ（ソリスト）：ニコラ・アルトシュテット 管弦楽：ハイドン・フィルハーモニー	目標値	950
		福岡シンフォニーホール		実績値	911
2	プラハ放送交響楽団	2018年7月8日	指揮者：オンドレイ・レナルト ヴァイオリン：岡崎慶輔 管弦楽：プラハ放送交響楽団	目標値	1,230
		福岡シンフォニーホール		実績値	1,123
3	Brass meets Classics	2018年7月16日	指揮：西村友 サクソ：本多俊之 吹奏楽：大阪市音楽団 他	目標値	1,000
		福岡シンフォニーホール		実績値	751
4	アクロス弦楽合奏団	2018年8月19日	ヴァイオリン：景山誠治、山本友重、瀬崎明日香 コントラバス：吉田秀 他	目標値	800
		福岡シンフォニーホール		実績値	1,017
5	ジュゼッペ・サツバティーニリサイタル	2018年10月2日	ヴォーカル：ジュゼッペ・サツバティーニ ピアノ：マルコ・ボエーミ	目標値	790
		福岡シンフォニーホール		実績値	791
6	フランコ・ファジョーリ & ヴェニス・バロック・オーケストラ	2018年11月20日	カウンターテナー：フランコ・ファジョーリ ヴェニス・バロック・オーケストラ	目標値	810
		福岡シンフォニーホール		実績値	640
7	NHK交響楽団 特別演奏会	2018年12月16日	指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ 管弦楽：NHK交響楽団 他	目標値	1,650
		福岡シンフォニーホール		実績値	1,579
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	7,230
				実績値	6,812

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	平成30年度アクロス・学校キャラバン	2018年5月18日～2019年2月1日	景山誠治 (ヴァイオリン) 田中美江 (ピアノ) 前田りりこ (バロックフルート) 他	目標値	900
		福岡県内小学校		実績値	718
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	900
				実績値	718

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

地域住民から九州一円にまで、世界一流の音楽・舞台芸術を提供することを使命に、公演事業で採択された7事業を適切に実施した。世界一流のオーケストラ「プラハ放送交響楽団」と国内屈指の実力を誇る「NHK交響楽団」、歌唱愛好家に絶大な人気を誇る名テノール「ジュゼッペ・サッパティーニ」など、優れた音楽公演をバランスよく実施。また、新しい聴衆を獲得する試み「ミーツ・クラシックス」事業として、今年度はプロの吹奏楽団を起用した「Brass meets Classics」を行った。吹奏楽部へのワークショップも実施し、学生の聴衆の裾野を上げたほか、クラシックとポピュラーによる誰もが楽しめるプログラムにより、普段ホールへ足を運ぶことの少ない地域住民への来場を促す努力をした。さらに「ハイドン・フィルハーモニー」では、札幌コンサートホールとの連携事業として、制作・招聘をした。極めて芸術性の高い海外の一流演奏家を、地方の優れた音楽ホールと一緒に制作・発信できることは、当地域住民にとっても貴重な芸術体験となった。（資料1、資料2）

普及啓発事業では「学校キャラバン」というアウトリーチを実施。少人数参加型によるワークショップを、福岡県内小学校で18回実施し、だれもが等しく文化芸術を創造・享受できる社会包摂事業を実施した。（資料3）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

福岡県、九州さらには西日本地域における芸術文化振興の拠点施設として県民の誇りとなり、親しまれる施設を継続して目指すため、質の高い音楽・舞台芸術の鑑賞機会を幅広く提供している。

社会的役割（ミッション）を遂行するため、より具体的な「3つの理念」に基づくバランスの取れた事業の構築と、理念を跨いだ重層的な事業展開を継続した。

①グローバルな感動体験 ②芸術文化を支える人の育成 ③参加・交流と地域文化の発信
（資料4）

当財団全体の事業としては、九州交響楽団との連携や九州内外の類似ホールとの連携を図り、事業制作ノウハウを広く共有することができた。また、地域サポート体制の強化として、大学オーケストラを主な対象とした青少年等音楽サポート事業や地元音楽団体などに対する助成事業を実施し、地域と連携した事業を展開した。その他にも文化ボランティア団体との協働作業を通じて、地域の文化関係者の相互理解と関係強化を図り、地域のニーズに応える努力を続けている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

公演事業では、事業評価シートを作成。公演毎の「事業評価シート」を指標として、評価ランクを設定し、各評価項目ごとに達成率に応じてA～Cへランク付けをした。（資料1）

■評価項目参考

- ①チケット販売額②自己財源率③事業経費削減
- ④来場者満足度⑤学生・次世代観客の獲得
- ⑥収入増のための施策⑦事業の有効性を高める工夫⑧財団理念の実現⑨当日の運営
- ⑩媒体への露出

結果、4つの大きな目標の結果として、下記の通りとなった。

【収益について：事業評価項目①②③】

・当助成金を活用するなど、収益の改善に努力したが、チケット販売に苦戦をした。

「ハイドン・フィルハーモニー」「Brass meets Classics」など、極めて創造性の高い事業は掛かる経費も高く、チケット販売の苦戦から収益を改善できなかった。

【集客について：事業評価項目④⑤】

・来場者アンケートの満足度は全て80%を超える好評価。（資料5）学生団体への割引販売も積極的設定した。

【運営：事業評価項目⑥⑦⑧⑨】

・収入増の施策などは、結果を出すことができなかったが、当財団の基本理念に沿った企画や当日の事業運営については適切に実施した。（資料1）

【広報：事業評価項目⑩】

・新聞での告知記事は全ての事業で掲載。（資料6）「フランコ・ファジョーリ&ヴェニス・バロック・オーケストラ」事業では、公演後の批評記事も掲載された。

以上、収益性については、チケット販売の苦戦から思うようならなかったが、その他については適切に目標を達成し、地域の文化芸術活動の振興に貢献した。

また、普及啓発事業「アクロス・学校キャラバン」では1回あたりの参加者数上限を50名程度とし、参加型の体験事業に拘った。目標に掲げた総人数には届かなかったが、予定した実施学校数18校を達成し、地域への音楽活動の普及啓発に有効であった。（資料3）

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業7事業については、2018年6月24日から12月16日までの期間を計画通りバランスよく実施した。準備期間を含めると、公演事業は2年前より会場を押さえるが、事業実施前年度の9月には概要を固め、実際の準備を本格化した。出演料の交渉および宿泊施設の確保、宣伝材料の提供を受けチラシ等の作成など、実際の事業期間はいずれの公演事業も10か月程度と考えられる。

また、普及啓発事業では2018年5月18日より2019年2月1日まで計18回実施。7月の1回は台風災害による振替えをしたが、無事同じ学校で実施することができた。準備は前年度1月より実施。出演者の日程調整等をおこなったあと、公募を実施。各学校の新年度が始まる4月のタイミングで実施学校を確定させ5月より事業を実施した。終了まで12か月に及ぶ事業であった。どちらも事業期間としては、当財団の他事業と比較しても適切だったと考えられる。(資料7、資料8)

対して事業費については、普及啓発事業では当初の収支予算通りで、計画通りに進めることができたが、公演事業において収支決算の効率性に欠けた。支出金額では当初の支出予算よりも減らすことができたが、収入(特にチケット販売収入)において大幅に減額した。結果、いただいた助成金の額以上の自己負担金額となった。(資料9、資料10)

事業期間は適切だが、事業費の収支に関して効率性があったとは言えなかった。掛かる経費ではなく、問題はチケット販売収入。「アクロス弦楽合奏団」以外の公演事業はいずれも目標の7割しか販売できなかった。事業経費を減らす努力は成功しても、収入を計画通りあげることが果たせず、バランスの悪い収支となった。それでも、事業費の金額は適切であったと思われ、効率性を著しく損ねたチケット販売収入について検証・改善を行わねばならない。特に計画段階での販売目標を慎重に設定し、実際の営業活動の見直しも検討していきたい。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として、世界一流のオーケストラや歌手による音楽芸術の提供と、小学生へのアウトリーチ型ワークショップである「学校キャラバン」事業をバランスよく実施した。（資料2）

福岡県エリアだけでなく、九州各県の状況として、まず第一に国際的に活躍するオーケストラ公演等を聴く機会は東名阪と比較しても圧倒的に少ない。各地域のホールは市民参加や地域の伝統芸能等、工夫して芸術振興を図っているが、経費の係る大型のオーケストラ公演などの実施は容易ではない。そこで、九州・福岡県の中でもアクセスが良く、音響の評価も高い当ホールが率先して大規模な音楽事業を実施することは、地域の文化拠点施設の役割のひとつである。（資料11、資料20）また、ホールに来場する機会を持たない若年層向けには「学校キャラバン事業」を実施し、音楽振興の裾野の拡大に務めた。

公演事業の「ハイドン・フィルハーモニー」では演奏会だけでなく、ハイドン博物館の展示品を持ち込みホールロビーにて展示を行った。音楽だけではないハイドンの魅力を紹介することができた。（資料12）「プラハ放送交響楽団」はチェコを代表する世界的オーケストラ。得意のオール・ドヴォルザークプログラムを組み実施した。ソリストには福岡が地元の世界的ヴァイオリニスト岡崎慶輔を起用し、来場者の関心を誘った。「ジュゼッペ・サツパティーニ リサイタル」「フランコ・ファジョーリ&ヴィニス・バロック・オーケストラ」では、世界的に著名な声楽家を当地域へ紹介することができた。（資料6）そして国内屈指のオーケストラ「NHK交響楽団 特別演奏会」ではチャイコフスキー「くるみ割り人形」の全曲を披露。地域へ貴重な鑑賞機会を提供することができた。

以上のように、地域の拠点施設として音楽の魅力を広く発信することができた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域の特性として多くの芸術団体が活躍しており、プロ・アマチュア問わず当ホールも密接に関わっている。特に「九州交響楽団」や、福岡県内高等学校の吹奏楽部とも協同して事業を実施した。

当助成対象事業「Brass meets Classics」では、クラシック音楽以外のファン層を新たに取り込むため、ジャンルの異なる聴衆を対象とした企画である。クラシック作曲家のメジャー作品を吹奏楽で演奏すること自体は珍しくはないが、著名なサクソ奏者、ピアノ、プロの指揮者、楽団が福岡の高校生とコラボレーションした演奏会は、作品の違った魅力を引き出すことに成功した。管楽器の魅力を地域住民へ伝えることはもちろん、地元高校生の共演は若年層へのアピールとなり、特に高校吹奏楽部からの反響にもつながった。（資料13）（資料14）

また、「アクロス弦楽合奏団」事業では、地元の九州交響楽団の協力のほか、国内トップレベルのオーケストラ（N響、都響、読響、日フィル、東フィルなど）や指導者、ソリストとして活躍する著名演奏家がアクロス福岡へ集結。当ホールオリジナルの弦楽合奏団として、定期演奏会を毎年続けている。期間中、福岡から参加する若手演奏家への研鑽の場ともなり、演奏家の育成にも繋がった。（資料15）

アクロス福岡は開館以来、ヴァイオリンなど弦楽器に特化した事業を実施してきたが、青少年を対象としたマスタークラス「ヴァイオリンセミナー」は20年以上継続している。その卒業生が九州交響楽団や読売日本交響楽団などでプロの奏者として活躍し、当事業「アクロス弦楽合奏団」メンバーとして戻ってきた。

これら一連の試みによって、福岡の演奏家および聴衆など、地域の文化芸術・音楽振興に、当事業は大きな貢献を果たすことができた。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団組織が標榜する「3つの理念」のうちのひとつに「芸術文化を支える人の育成」がある。社会的役割を遂行するためには、自主・自立的な継続性ある運営体制と財政基盤の強化が必要である。

運営体制の確立としては、職員一人ひとりの職務能力向上が極めて重要である。よって年間の研修計画を策定し、アクロス福岡を管理運営していく上で職員として必要不可欠な知識習得を目的とした「全職員共通研修（基本研修）」と、職員の専門性の確保のための「業務内容に関連した専門研修（業務研修）」を計画的に行うことにより人材育成に努めていく。その他、他施設との人材交流にも積極的に推進し、「九州類似ホール連絡会議」「コンサートホール連絡会議」等へ参加し、事業連携に繋げている。（アクロス弦楽合奏団・所沢公演など）

また、これらの成果の検証・改善も必要であることから「職員人事評価シート」や「事業評価シート」の作成と面談や、外部からの「評議員会」による事業検証や、「公社等外郭団体経営評価」を実施。現状の能力や事業実績に対する改善を行い、新たな目標・計画に生かすこととしている。（資料16、資料17、資料18）

財務基盤の強化では、福岡県からの指定管理料のほか、福岡市からの「自主文化共催事業実行委員会負担金」をいただき、福岡県と福岡市が共催して行う文化振興事業の実施に充てている。（資料19）

自主財源を確保しつつ効率化を一層進めながら収支管理の徹底を行い、強固な財政基盤の確立を続けていく。（資料21）